

○ごみ処理量の推計について

令和2年7月3日  
第21回新中間処理施設整備検討会議 資料2

1. 令和9年度 可燃ごみ排出量(推計)

(単位:t/年)

	家庭系			事業系			計		
	旧推計	新推計	差	旧推計	新推計	差	旧推計	新推計	差
1.帯広市	19,709	19,452	△ 257	14,135	13,993	△ 142	33,844	33,445	△ 399
2.音更町	5,359	5,401	42	2,782	2,805	23	8,141	8,206	65
3.土幌町	0	725	725	0	80	80	0	805	805
4.上土幌町	0	608	608	0	128	128	0	736	736
5.鹿追町	420	449	29	0	0	0	420	449	29
6.新得町	644	636	△ 8	439	417	△ 22	1,083	1,053	△ 30
7.清水町	824	792	△ 32	570	309	△ 261	1,394	1,101	△ 293
8.芽室町	1,926	1,827	△ 99	1,206	1,138	△ 68	3,132	2,965	△ 167
9.中札内村	204	207	3	183	183	0	387	390	3
10.更別村	176	183	7	53	62	9	229	245	16
11.大樹町	950	552	△ 398	561	949	388	1,511	1,501	△ 10
12.広尾町	1,464	1,133	△ 331	212	208	△ 4	1,676	1,341	△ 335
13.幕別町	2,956	2,938	△ 18	1,440	1,444	4	4,396	4,382	△ 14
14.池田町	579	530	△ 49	306	231	△ 75	885	761	△ 124
15.豊頃町	266	273	7	80	88	8	346	361	15
16.本別町	605	521	△ 84	183	173	△ 10	788	694	△ 94
17.足寄町	589	530	△ 59	242	235	△ 7	831	765	△ 66
18.陸別町	215	213	△ 2	60	51	△ 9	275	264	△ 11
19.浦幌町	404	402	△ 2	125	154	29	529	556	27
計	37,290	37,372	82	22,577	22,648	71	59,867	60,020	153

\*家庭系の可燃ごみ排出量(t/年)については、自治体ごとの原単位と人口推計、可燃ごみ割合で算出、事業系については自治体ごとの事業系ごみ排出量(総量)から可燃ごみ割合で算出

2. 令和9年度 焼却処理量(推計)

(単位:t/年)

	旧推計	新推計	差
可燃ごみ	59,867	60,020	153
破砕可燃物等	13,382	13,666	284
災害廃棄物	9,000	9,800	800
計	82,249	83,486	1,237

3. 焼却処理施設の規模(推計)

計画年間処理量については、19市町村(旧推計は17市町村)の将来人口やこれまでのごみ処理実績(令和元年から過去5年間)より推計し、年間実稼働日数は、通常時では280日稼働とするが、災害廃棄物処理時の稼働日数を300日として計算したもの

- 【計画年間処理量】 焼却処理量の合計
- 【年間実稼働日数】 300日 (旧推計と同様)
- 【調整稼働率\*】 96% (旧推計と同様)
- 【施設規模】 290t/日 (旧推計では286t/日)

\*調整稼働率とは、正常に運転される予定の日でも故障の修理、やむを得ない一時休止等のために処理能力が低下することを考慮した係数